

エアコンは友達なのだ号

ブル通信

2407

何がどうなっているのだ？
東京23区以内で鹿が出た？
名古屋はサル

江東区で鹿、出たらしいじゃない。何がどうなっているのだ？詳しい人の話によると荒川の上流、30キロくらい遡れば鹿が住んでいるエリアもあるらしいので一晩で20キロくらいは鹿は移動できるみたいで荒川上流から来た可能性が高いらしい。名古屋のサルはどこから来たのかわからないみたい。

ご存じの通り札幌市内とか根室の方では市街地にヒグマ。これは恐ろしいよね。さらに都内八王子にはツキノワグマが出没。千葉県ではシカ科の動物、キョンが頻繁に出没。推定で50、300頭もいるらしい。当然農作物の被害もあるけど鳴き声がギャーってすごい声で怖いらしい。その他にもタヌキ、アライグマ、ハクビシンとか、さらには生息域が縮小するなかでうまく適応する動物の中にはコヨーテなどもいるらしい。コヨーテってあなた、砂漠じゃないんだから。

どうも都会で急速に増えている空き家がアライグマやハクビシンのねぐらとなり生息域を拡大。キョンなどの比

編集発行人 ブル
ブル通信は発行人が
ブルドッグの様な
顔をしているので
ブル通信としました。

ブル通信は
過去に...

ガッツのお車の
ご購入 売却
車検 修理
査定 見積もり

の
どれかをご利用頂いた
お客様に
お送りしています。

較的大型の生物などの場合は、郊外に増えているソーラーパネルの発電施設の下は格好の雨風を凌げる場所である上に下草があるので住処となり生息域を拡大。新宿と小田原を結ぶ小田急電鉄ではここ10年くらいで鹿との接触事故が以前の5倍以上。これは鹿が鉄分補給のために線路を紙めにくるのが原因らしいけど、いずれにしても数が増えているということだよな。

怖いのは動物のフンやノミ、ダニなどによる感染症リスクが増大していることらしい。まああまり気持ちのいいものではないので住んでいるところにはあまり出てほしくないというのが正直な感想なんだけど、抜本的な対策にはならぬけど対症療法としては僕が使っている方はダメでできるものがあるよ。ただしペットを飼っている方は「熊をばだ」というけど害獣の忌避効果はあると思うのが「熊をば」という製品。津軽弁でをばるといのは逃げるという意味らしいけど本来、熊対策の製品なんだけどサイトによるとなめくじとかへび、ネズミやモグラにも効果があるって書いてあるよ。

僕の場合、趣味でかなり山奥まで溪流釣りに入るわけだけど既に熊に3回出会ったんで怖いから買ってみた。去年から使いだしたけど、それまでは山奥ではほぼ100%、鹿とかサルは見たけど使いだしてから一度も見たことがないからたぶん効いているんじゃないかと思う。まあそ

の製品の効果がどうかは厳密にはわからないけど、あれだけいつも見た鹿やサルを全く見なくなったのは事実。熊の場合、風下なら3キロ先の臭いを嗅ぎ分けるらしく犬の10倍の嗅覚。どんな動物でも人間よりは嗅覚がいいわけで、成分はカプサイシンという唐辛子成分。僕は釣りに使うんで携帯用の2300円という安いものだけと固定設置用のものもあるみたい。害獣に畑を荒らされたとか家の近くに害獣が出るとか言う人の場合、値段的にも手ごろなんで一度試してみてもいいと思うよ。

先日も山奥の溪流に入ってザックにぶらさげるために熊をばるを密封した袋から取り出した途端にたぶん山犬だと思うけど急に犬が吠えだした。たぶん臭いに反応したのだと思う。熊をばるで検索したらいいと思う。

君たちもいずれ衰えるんだよ

(自転車通勤をしていたおっさんの話)

結構色々な趣味があるわしではあるがそのひとつに自転車も大好きなのである。

以前住んでいた家は比較的公司にも近かったのですが2年くらい自転車通勤をしていたのである。ずっと続けるつもりだったのだが足を骨折して止めることになってしまったのであるが、5キロくらいの距離を自転車通勤していたのである。ただしひとつ問題があるのであった。会社にたどり着くまでに激坂が1か所あるのである。行きは登り、帰りは下りなのだが下りでノーブレーキならたぶん時速70キロは出てしまうような本当に正真正銘の激坂を朝、必死で登って行くのであるがわしの自転車は21段変速のまあまあ高いいい自転車なのであるが、ある日激坂をヒートン野球部）がママチャリであっさりとおしを抜き去ったのであった。それまで見たことはなかったからたぶん引つ

越してきたんだと思う。まあそれはいい。それはいいが抜き去る瞬間チラッとワシの方をみて、ニヤッと笑いやがった。頭にきたね。たあけ。立ち漕ぎに切り替えて必死に追ったがやはり現役運動部高校生にロートルオヤジが勝てるわけがないのである。この日より地獄のバトルが始まったのである。

次の日、いつもように自転車で会社に向かい、激坂の手前も結構な坂なのでハアハアいいながら激坂に来ると昨日の高校生がいるではないか。どーもわざわざ待っていた感じである。くそつたれと思ひ、最初から立ち漕ぎで行くが途中から涼しい顔をした高校生に抜かれたではないか。その日から高校生との激坂バトルが始まったのであるが当たり前だがただの一度も勝てたことがない。21段変速がママチャリに負けるなどという事が許されるであろうか！こんなことが数日続き、だんだんと高校生はスタートを遅らし、頂上付近で抜き去るという暴挙に出るようになり完全に頭にきた俺は、高校生がいない土日にその坂でひたすら練習し、ライン取りを確認し、さらにタイヤもブロックタイヤからロード用タイヤに交換しそれを土日の度にひそかに練習したのである。そしていよいよ運命の日

は来た。

月曜日、また高校生がいたのである。わしは高校生にニヤッと微笑みスタートしたらいつもより高校生はスタートが早いではないか。これはいかん。いかんがやるしかない。心臓が破れるほど必死に漕いだのである。高校生も結構マジで漕いでいる。あと50メートル30メートル10メートル、ゴォールウ、さて勝敗はどうであろう？ちセンチくらい勝ったように思うがそのままだり込んで動けなくなった俺を尻目に高校生は平然と自転車に乗り走り去ったのである。畜生、お前だっけいずれ衰えるんだ。と心の中で思った俺であった。